

対策メニューの詳細  
(イメージ)

### 対策内容の詳細

(1) 温室効果ガスの排出の抑制等に資する設備の選択

ア 熱源設備・熱搬送設備

大温度差送風・送水システムの導入

#### 対策の目的

○ 一般的に、ファン・ポンプのエネルギー消費は、オフィスビルの全エネルギー消費の約1/4を占めている。このため、省エネやCO<sub>2</sub>排出の削減を進めるためには、搬送エネルギーの低減が重要となる。  
○ 水を循環させて熱を搬送させる場合、冷水の行きと帰り温度の差と流量は反比例の関係にある。このため、行き・帰り温度差を大きく取り、送水量を低減するなどの大温度差システムを導入し、搬送する水の流量や空気の風量を低減させることにより、搬送設備のエネルギー消費量やCO<sub>2</sub>排出量の削減を図る

#### 対策の概要

○ 大温度差システムは、空調空気の吹き出し温度差、熱媒が水の場合の放熱器・冷温水コイル・冷凍機蒸発器・凝縮器の出入口温度差を大きくし、流量を減らす

